

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400187		
法人名	社会福祉法人 やまゆり		
事業所名	グループホーム せせらぎの家		
所在地	島根県出雲市佐田町一窪田118		
自己評価作成日	平成23年11月11日	評価結果市町村受理日	平成24年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=32">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=32</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成23年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境に立地していることで、四季折々の表情を身近に感じることができます。入居者様の思いを第一に考え支援を行っています。調理や掃除など長い間培ってきたことを役割として発揮して頂く事で、残存機能の活用や自信の回復に繋がられるようしています。また今年度は入居者様の思い出の場所、住み慣れた我が家などを訪ねる「ふるさと訪問」を実施しています。この訪問を中心としたプランをたて、入居者、家族、職員の関係作りができ、統一したケアをすることができています。近隣の方との関係は良好で交流会や体操教室など実施しています。今年は雑草だった場所を整備し芝生を植えました。ここで入居者様が食事をしたり、近所の子供達が遊べるようしています。大人から子供まで多くの方がホームの中に入り楽しく生活ができるような取り組みを常に考え実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域とのつながりを大切に事業所運営が行われており、夏祭りや秋祭り、とんどさん、餅つきなどの地域行事のほか、家族交流会や地域交流会を定期的に企画し、これらの行事を通じて、地域の方々と顔なじみの関係ができており、地域に根ざした施設作りが実践されている。外出支援にも積極的で、利用者の馴染みの人や思い出の場所を訪ねる「ふるさと訪問」の取り組みは、利用者の表情や会話を引き出し、家族とのコミュニケーションにも効果的な取り組みとなっている。日常的にも外出する機会は多く、スーパーへの買い物や散歩、ドライブなど戸外へ出かける頻度は高い。また、災害対策にも力を入れており、事業所周辺地域の防災マップ作りや避難場所の視察、備蓄状況の確認など、より具体的な災害対策が検討されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「地域の中で安心して住める居場所となるように」と年度始めに全スタッフで話し合い目標を定めている。今年度は笑顔を目指し利用者、家族、地域の方、職員の笑顔大切にしている。	地域とのつながりを大切にした運営が行われ、様々な行事や交流会などを企画し、日常的にも地域の方々との交流を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月体操教室を開催し、近隣の方と会える機会を作っている。夏には交流会を行い、いろいろな世代の方と交流している。また地域の秋祭りに参加し獅子舞を披露してもらっている。事業所周辺の草取りなど環境整備に近隣のボランティアグループに来て頂き、終了後は利用者の方と一緒にお茶会など行っている。	夏祭りや秋祭り、とんどさん、餅つきなどの地域行事のほか、家族交流会や地域交流会を計画的に行っている。交流会を通じて、地域の方々と顔なじみの関係ができ、日常的にも野菜のおすそ分けなどのできる関係ができています。また、施設横の広場を整備し芝生を植え、近所の子供達の遊ぶ声が施設内にも聞こえる環境となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流の場の提供、訓練指導員による体操教室を毎月行っている。認知症の人と家族の会が行う交流会へ参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は報告だけでなく今年度は災害時の避難経路、避難場所などいくつか実際に見て頂き検討していった。会議の内容はミーティング時に確認しサービスに活かしている。	2ヶ月に1回定期的に行われているこの会議では、施設運営について率直な意見交換が行われている。事業所も会議を通じて地域への情報発信ができる貴重な場として会議を認識しており、事業所運営に欠かせない会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退居時は本庁だけでなく佐田支所へも報告を行っている。	施設の実情を知る市のスタッフがあり、大雪の際の除雪や災害時の連携を相談することができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での研修や在宅課での研修に参加しホーム内でも研修会を行い全スタッフが理解できるようにしている。	一人で外出する利用者には、行動パターンと行動の目的を把握し、臨機応変な対応をとることで本人の行動を抑制しない対応が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での研修や在宅課での研修に参加しホーム内でも研修会を行い全スタッフが理解できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、ホーム内でも研修会を行い全スタッフが理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接などで話せる機会を確保している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族交流会などで意見を聞けるようにしている。	面会や家族交流会などで意見を聞くようにしており、出された意見や課題を一つ一つ丁寧に解決する取り組みがなされている。	できるだけ多くの意見や要望を事業所側が積極的に聴く努力や場面作りを今後も期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課の面接時に運営についても意見を求めている。また日頃から話せる関係作りをしている。事故報告書では家族におこなった説明と改善策を話し合い再発防止に心がけている。	月に1回スタッフミーティングを行い、日々の業務における気づきや問題点について話し合いが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を通じて課長との話し合いを設けている。介護職員処遇改善交付金を全職員に出している。また被服手当を全職員へ支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修への参加。認知症対応型サービス事業所管理者研修への参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出雲市内の連絡協議会を通じて研修会で情報の交換、研究発表会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフの勤務体制を厚くしできるだけゆったりと対応できるようにしている。担当を決め関係作りができるようしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず自宅を訪問し話を聞くようにしている。家族様がリラックスして話せる環境で面接するようしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時には地域の資源を紹介し出来るだけ自宅で生活できる方法を一緒に考えるようしている。担当のケアマネージャーとも相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で利用者さんが経験されてきたこと、できることなどしてもらっている。洗濯物干し、たたむ等。掃除や料理など助けてほしい、手伝ってほしいと声をかけ一緒に行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の面会時にはゆっくり話せる場所を用意し、日頃の様子を伝え安心して頂けるような話題を提供するようにしている。利用者さんの生活歴など改めて聞く機会としている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物と一緒に出かけたり、地域の行事に参加し、地域の一人としての関係を築いている。また利用者さんの思い出の場所、住み慣れた我が家などを訪ねる「ふるさと訪問」を実施しそこに近所の方が訪ねてくれたりしている。	「ふるさと訪問」を個別に計画し、馴染みの場所や友人、知人に会いに行くなどの取り組みが行われている。「ふるさと訪問」の実践は、利用者の表情や会話が豊かになり、効果的な取り組みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士一緒に仕事をしてもらったり、一緒にテーブルについてもらう。利用者さんの間に入り、一つの話題でみんなが笑顔になるよう努めている。できるだけ一人ぼっちにならないよう同席し話しながら作業を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られても必要であればこれまでの生活状況等について情報をご家族や施設へ提供します。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出希望や、行事への参加など希望があれば職員で相談し実行に移す。買い物時食べたい物の確認をする。得意な作業や余暇の過ごし方は把握できているので、都度声かけしている。	利用者との日常会話の中で、昔のエピソードや思い出を話してもらい、会話の中から、もう一度行ってみたい所や会いたい人、懐かしい食べ物、暮らし方を聞き出し、日々のケアへ役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書をしっかり把握する。入浴時など二人になれる時に昔の話を聞く。「ふるさと訪問」のとき家族の方から昔の話を聞く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時のあいさつの際、表情や顔色、また記録を読むことで現状の把握に努めている。朝礼を行い夜間状態の把握、本日の過ごし方など確認し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でモニタリングを行っている。	利用者の希望や要望を主体とした「ふるさと訪問計画」を含む介護計画を作成している。身体的な介護だけでなく、利用者の暮らし方や希望などが反映された計画作りが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を十分に把握できるように、話し合いの機会をつくり情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に「ふるさと訪問」を計画し実施している。受診など柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のサロンへ参加している。希望があれば町内の温泉施設へ行き、入浴してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は入居前のかかりつけ医を継続している。地元の医師、在宅診療所の医師とも連携をとりいつでも往診して頂ける体制であり利用者、家族、職員の安心につながっている。	入居前からの医療を継続的に受けておられる方が多く、本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。スタッフが受診の同行を行ったり、書面により医師へ生活状況を報告するなど、必要な医療機関との連携が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から気軽に相談できる関係作りをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スタッフ全員が定期的に面会に行くようしている。病院の相談員とも良好な関係作りをしている。なるべく早く退院してもらおうようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについては必ず家族、主治医と一緒に話し合い方針を決定している。またターミナルケアを振り返り、思いをレポートにし管理者と面談を行う事で利用者の尊厳を守ることの大切さを共有する。	本人や家族の意思を踏まえ、医師、職員が連携し、安心した最期を迎えられるよう終末期ケアの実践がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急講習会を開催し緊急時の対応訓練を行っている。運営推進会議の中でも議題としている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と一緒に避難訓練や防災訓練を行っている。大雨の時は夜勤者を増やすなどの体制を作っている。停電時用に発電機を準備している。定期的な発電機の作動の確認を行っている。	平成18年の水害を経験し、事業所周辺地域の防災マップ作りや避難場所の視察、備蓄状況の確認など、より具体的な災害対策が検討されている。運営推進会議等においても災害時の地域との連携・協力体制について話し合いが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり声のかけ方にも工夫をし傷つけないよう努めている。留守の部屋に入るときは断りをし入るときはノックをして入るようにしている。利用者、職員が同じ町内ということが多く個人情報の取り扱いには細心の注意をしている。	排泄介助などの声かけや促しは、他の利用者にそれと悟られないよう、さりげなく行われている。各部屋にそれぞれトイレが備え付けてあり、施設構造上もプライバシーに配慮した造りであるといえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日着る服や座る場所など選べる方には確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホール内でも居心地の良い場所、過ごし方があるので希望を聞きそちらで過ごして頂く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類がいつも同じものにならないよう洗濯したものは下にしまうようしている。部屋を出る際は洗面台で整髪し、衣類の乱れがないようチェックしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物と一緒に出かけ食材を選んだり、調理方法を教えてもらったりそれぞれ出来ることを手伝ってもらう。職員は利用者と一緒に食卓を囲み食事について話題も広がり和やかに食事をしている。	利用者が座って調理できるようサイドテーブルを使用するなど、調理等にも参加してもらえるよう工夫されている。調査時も職員と利用者が同じテーブルで、和やかな雰囲気ですぐに食事を済ませることが確認できた。また、干し柿作りなど季節の食材を使用したおやつ作りも利用者と一緒に行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は偏りのないよういろいろな物を買うようにしている。また旬のものを使用するなど季節を感じてもらえるようしている。水分量、食事量は確認し記入。水分の取りにくい方は好みのものを準備し、小まめに飲んで頂くようしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後、夕食後の口腔ケアをご本人に合わせて行っている。週に2回は洗剤での洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認し一人ひとりのパターンに合わせてトイレ誘導を行い、必要時介助を行う。行きたい素振り、態度を見逃さず、トイレへ案内する。	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや促しでトイレ誘導が行われている。トイレでの排泄を大切に、自尊心に配慮した援助が行われている。ズボンの上げ下げなど、できることは自分でしてもらえよう介助されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを食べて頂いている。排便チェック表を確認し便秘と思われる時はセンナ茶を服用して頂く。リハビリ体操を毎日行い身体を動かして頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2、3回の入浴ができるよう誘っている。ご本人の良い時間帯、好みの湯加減にし歌を歌ったり、話を聞いたり楽しい時間となるよう工夫している。入浴介助用品を使用し安全に入浴できるようにしている。	入浴は大切なコミュニケーションの時間と捉え、利用者の話をゆっくりと伺う機会とするなど個別に対応されている。入浴を好まれない利用者へも本人に合わせた声掛けで、定期的な入浴ができるよう援助されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝の弱い方もおられるが目覚めたら食事をしてもらおう。眠気が強い時は少し眠れることを勧めたり疲れの見える時は個々に好きな場所で横になってもらったりしている。午睡もたたみやソファなど好きな場所でもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイル、緊急時持ち出しファイルに現在の服薬状況が分かるようにしている。服薬変更時は連絡ノートに記載している。服薬チェックシートにて毎日確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でそれぞれの役割(調理、掃除、買い物など)の維持に努めている。気分転換に散歩をすすめ一緒に行ったり、五目並べ、パズル、読書など各々の好きなことを勧めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に近くのスーパーに利用者さんで行き、食材や日用品の買い物を行っている。「ふるさと訪問」の計画に添って個々の外出支援をしている。	スーパーへの買い物や施設周辺の散歩などは日常的に行われている他、ドライブに皆で出かけたり、利用者個々の希望で行われる「ふるさと訪問」など外出する機会は多く、スタッフも外出支援へ積極的に取り組む姿勢がみられる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方は家族様の了解を得たうえで自己管理をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方には電話対応をしている。年賀状や暑中見舞いのやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通の空間へ四季の花や絵、写真などを飾り、利用者の作品を展示したりしている。常に整理整頓を心がけて落ち着く雰囲気を作っている。	陽あたりの良い明るい空間で、外の景色やホームで作る畑などが室内から間近に見ることができ、開放的なホールとなっている。調査時も心地良い音楽が流れ、利用者がソファでゆったりと過ごしている姿が印象的だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや長椅子を置く事で、思い思いの場所で過ごしてもらえるようしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真の掲示や、利用者が自宅で使い馴染んだ鏡台を持参していただいている。居室掃除や衣類の整理、衣替えなど利用者と一緒にやっている。夜間のトイレ介助に鈴を使用したり転倒防止のため引き戸の開閉幅を調整したり、家具の配置を工夫している。	利用者と共にしつらえられた居室は、寝具やたんす、写真や思い出の品々が持ち込まれており、それぞれの利用者の居心地の良さに配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒がないようにドアの開閉を調整したり、ベッドの位置を個々変え、タンスを入口近くに置き、つかまり歩きができるようにするなど工夫している。		